

公募特集

コロナ禍から With コロナ時代へ ——リハビリテーションの変化

From the Corona Disaster to the With Corona Era
- Changes in Rehabilitation

＊ ＊ ＊

企画にあたって

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、2019年12月に、中国の武漢市で最初の感染者が報告されてから、わずか数か月ほどで世界的なパンデミックとなりました。これまで経験したことのない事態により、リハビリテーション領域や介護、福祉、地域ケアにおける臨床の現場はその対応に追われました。本誌第48巻第9号（2020年9月号）では、緊急特別企画「新型コロナウイルス感染症 現場レポート」として、感染拡大当初における現場での対応の様子をリハビリテーションの各現場からレポートしていただきました。

さて、新型コロナウイルスの出現から3年が経過した現在においても、まだ、感染の終息はみえず、いわゆる With コロナ時代となっています。コロナ禍により、リハビリテーション領域、介護、福祉、地域ケアにおける感染対策は大きな変革を強いられました。単に、患者さんや利用者さんに接するときの対応だけでなく、面会、集団での活動など「活動と参加」をゴールの一つとするリハビリテーション業界にとっては、逆風が継続している状態です。外出や通いの場の利用の減少などで、高齢者の心身機能への負の影響が懸念されています。また、関係者同士の「顔の見える」関係のための集まりも減り、連絡方法においても変革が続いています。

一方で、基本的な感染予防対策が徹底されるようになったこと、ウェブ利用の普及により、オンライン会議や授業、講義、学会などの利便性が広まったことや、遠隔診療に対する閾値が下がったことなど、今後に生かせる良い面もあります。それでも、IT 弱者や障害者の作業所が被った不利益などもあり、今後の対策を考えないといけません。

そこで本号では弊誌創刊以来、初めての試みとして公募特集「コロナ禍から With コロナ時代へ—リハビリテーションの変化」を企画し、各現場がコロナ禍のなかで得た具体的な経験を読者の先生方に広く募集しました。COVID-19 による影響の全容は明らかではありませんが、少しでもそれらを見える化することが目的です。

現場における貴重な経験の蓄積は、With コロナ時代のリハビリテーションを計画するうえでの有用なデータとなることでしょう。そして、デメリットをできるだけ少なくし、メリットをできるだけ広範に享受していくにはどのようなことが必要かを読者とともに考えていきたいと思います。

公募にあたっては大きく以下の A～D の 4 つの視点に分類し、報告していただきました。

- A** コロナ感染対策のためにやめたこと・減らしたこと・減った患者数などと、その後の対応
- B** コロナ感染対策のために要したパーティション・PPE・消毒剤・部屋の改装などの具体的な量・コスト
- C** Web 利用での面会や訓練・指導など、コロナ禍を契機に新たに始めたこと、その導入コスト（機器だけではなくスタッフの人的）、今後の継続の展望
- D** 機器、動画の導入や、Web での勉強会、会議など、コロナ禍で弾みがついたこと、そのコストと利点など

最後に、COVID-19 への対応でお忙しい中、多くの現場から貴重な報告をお寄せいただきましたことをここに感謝申し上げます。

「総合リハビリテーション」編集委員会